

科目名	歴史学	担当教員	井上 将文 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AB	①					

科目概要	現代世界とそこに生きる我々の来歴を知り、人類史のベクトルがどのような将来を指し示しているかを知ることは、現在に生きるわれわれの自己理解を深め、かつ今後の社会と文化の方向性を見極めながらいかに人生を構築すべきかを考える上で、決定的な重要性を持つ。本学で教育する歴史学は、従来しばしば見られたような歴史の細目を教える暗記型の歴史学ではなく、上記の目的を強く意識し、かつそれに即したトピックを厳選して現代に生きる人類としての自己理解を深める内容とする。かつ同時に、自らが生きる場である地域社会にも目配りができるように、北海道の歴史をも内容に含める。
学習目標	近現代北海道史を、移民と農業という視点から学ぶ。この作業を通じて、さまざまな歴史史料（文書、官庁公刊物、新聞、雑誌など）・文献（自治体史など）から、わたしたちが生活する北海道の歴史への理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	オリエンテーション	現代北海道と農業	今日の北海道における農業の重要性を再確認し、その歴史的連続性について把握する。	
2	明治～大正	開拓使～北海道庁初期における農業政策と移民	明治期における北海道移民の増加と、農業政策の展開過程について理解する。	
3	大正	北海道第一期拓殖計画の開始と農業移民の増加	第一次世界大戦期の北海道において農業移民が増加していく過程を理解する。	
4	昭和戦前期 ①	北海道第二期拓殖計画の開始と農業政策の転換	昭和初期北海道において、酪農事業が移民政策の一環として推進される過程を理解する。	
5	昭和戦前期 ②	凶作・水害と移民生活の変容	昭和初期の凶作・水害の影響によって、北海道の農家の生活が変容していく過程を理解する。	
6	番外編	海外移民政策と北海道	戦前期北海道において展開された海外移民政策が北海道に及ぼした影響について理解する。	
7	昭和戦後	戦後北海道総合開発と農業移民	戦後北海道総合開発下の農業政策を、移民政策という視点から理解する。	
8	総括	北海道は何を求められてきたか	明治期から今日まで、北海道が果たしてきた、或は求められてきた役割について把握する。	
評価方法		授業内レポート 50%、最終レポート 50%で評価する。		
課題に対するフィードバック		毎回の授業の冒頭にて、前回授業の課題について説明する。		
教科図書		授業中に紹介する。		
参考図書		同上		
学習の準備		(予習) 用語など、授業中に指示された予習のポイントについて、各自で調査しておくこと (90分)。 (復習) 授業にて扱った内容の要点について、配布された資料などを基に各自で確認すること。本授業の内容は、毎回連続しているため、毎回の授業内容を各自で把握しておく作業が重要となる (90分)。		

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	